

ときめき人

Tokimeki bito



地のものの 恵みを生かして 登米の色を染める

東和町・米川7区

鈴木 景子さん

すずき けいこ
1977年生まれ 血液型/A B型

Profile

静岡市出身。震災ボランティアを経て、2016年から3年間、地域おこし協力隊として米川公民館に勤務。今年4月、までな舎オープン。看板犬・玄くん(オス5歳)人懐っこくて、走って遊ぶのが大好き。



現在は、「裂き織」「ガリ版印刷」「金継ぎ(漆継ぎ)」の体験ができます。

詳しくはWebで

までな舎



里山の豊かな自然に囲まれた古民家で、昔ながらの「までな(丁寧な)手しごとを体験できる学び舎「までな舎」が、東和町米川地区にオープンした。

静岡出身の鈴木さんが宮城へやってきたのは、震災の年。物資運搬や地域支援ボランティアの活動拠点として旧鱒淵小に滞在したのが、登米市との出会いだった。稲刈り体験をさせてもらったり、住む家をお世話してもらったりと、生活していく中で地域の人情に触れた鈴木さんは、米川の魅力を広く発信する活動を始めた。「歴史や文化、身近にある地域資源に触れ、感じ、楽しんでもらえる場所を作ろう」。こうしてできたのが、までな舎だ。体験メニューの一つ「金継ぎ」は、器などを修復する伝統技術。「米川の窯元で作られた陶器を、大切に

使い継ぐための仕事ができたら」と考えたことがきっかけになった。

までな舎は「米川ガイドの会」の事務局も兼ねる。「会の活動として、地域の歴史や伝統に関する資料を作成中なんです。人口減少が進む中で歴史が埋もれてしまわないよう、多くの人に地域の事を知ってもらえる方法や体制づくりを考えていきたい。その取り組みが、若い人や移住者の増加につながれば」。までに、丁寧に、言葉を紡ぎながら、鈴木さんは「人や環境に恵まれ、ここでは季節と一緒に生きていっていると感じています」と笑顔を見せた。

までな舎の畑には、鈴木さんの植えた藍の苗が並ぶ。長い時間と手間をかけ染め上げるとい。「登米の色」を見られる日が今から待ち遠しい。

編集後記

▼数年ぶりに中総体の雰囲気に触れ、どこか懐かしい気持ちになりました。勝利に向け奮闘し、共に喜び、涙の経験が選手のかげがえのない大きな財産となるでしょう。体力や技術、人とのつながりや人間性を育ててくれるスポーツをこれからも続けてほしいと思います。(白石)

▼幼い頃、子守唄代わりに祖父が聞かせてくれた大蛇退治や岩戸開きの物語。神楽を観るたびわくわくドキドキした思い出が蘇ってきます。神楽大会で、伝統芸能の継承のための活動に取り組み、力を注ぎ続ける保存会の皆さんに、改めて尊敬の念が深まりました。(渡邊)

▼絵本ワークショップを取材。運営は、子どもの健全育成に向け活動するNPOやサークルで構成する「とめのこどもを想う会」が協力。各ブースには、キラキラした目を輝かせる子どもたちとつられたように笑顔の大人たち。だんらんを楽しむ様子に自分も笑顔を分けてもらいました。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

